

---

? a m i n t h e トイレ!

潤生

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

? a m i n t h e トイレ!

### 【Nコード】

N1307L

### 【作者名】

潤生

### 【あらすじ】

トイレから人が出てくるなんて、聞いたことないんですけど。

お化け(?)と可哀相なニンゲンの、ユルい日常。

ぶるるーぐ！

夏休み明けという、一年の中で一番気だるい朝。

この時、寝ボケてさえいなければ。寝ボケて階段から落ちてさえいなければ。

もう今の時点では手遅れだが、この時チャキンと起きていれば俺はもつとまともな人生を送れていた。．．．．．  
．．ホントにもう手遅れだが。

「ふああ．．．．．だっ!?ぎゃああああ!」

その時俺はかなり寝ボケていた。

正気に戻ったのはつるつとベタな効果音とともに階段から落ちる寸前で、欠伸と同時にまっ逆さま、というアホを盛大にしでかした。

「つうう．．．!痛つてえな畜生．．．!」

その時、不意に上から声が降ってきた。

「大丈夫かい?」

「．．．．．は?」

最初に言うておく。俺は一人暮らしだ。昨日家に友達を泊めた覚えもないし、俺以外の人間がいる訳がない。なのに何故か俺以外の人

間の声がした。嘘だろ？

ぱつと顔を上げると、そこには見覚えのない着物の男がいた。

「アンタ誰？……て、」

そして俺は気付いた。そいつの足は途中から切れていて、ふわふわと浮いている事に。

「……うつつうつつ嘘だろ？お化け？お化け？」

「そんなに怖がらなくても」

「や、え、そんな事言われても。お化け？お化け？」

「まあ端的に言えばそうなるね」

「ええええええええええ」

ちよと待てよオイ。嘘だろ？誰か嘘だと言ってくれ。

「嘘ではないよ」

「ぎゃああああすいませんでした許してとって食わないでええええええ」

無意識の内に身体が動いていたらしい。俺は言いながらトイレに駆け込んでいた。

「……これは夢だ夢。幻覚幻覚幻覚」

壁に寄りかかって両の耳を塞いだ格好で自分に言い聞かせる。さっきの人は夢。いないいないいないいないいない。そんなことを考えていたら、更なる追い討ちが待っていた。

「これは夢これは夢これは……うええええええええええ！？」

一昨日友達と見たホラー映画より怖いぞなんだこりゃ！

信じられない。信じられる訳ないだろトイレから手が出てくるなんて。

「ぎゃああああ何なの！？」

トイレの便器から出てきたその手は便座を掴み、ずるずると這い上がってきた。

「ぎゃああああああー！」

そうして出てきたのは、

「ふう。……あり？えーと、  
おはよーございます？」  
「ぎゃあああああああああ！」  
普通の人だった。（ただしやっぱり足が途切れている）  
……学校、遅れて行くしかなさそうだな。

ぷろろーぐー！  
（誰なんだよお前ら！）

わん！

で、だ。

トイレから手だけ出ているのは正直かなりビビったが、全部が出てきて人の形をとったら大して怖くなくなった。(足はないけどという訳で、最初にいた着物とトイレから出てきたヤツをひっ捕まえ、とりあえず正座させて話をきいている。だって普通だと不法侵入だろ。

「と、まずはお前らが何者なのかだ。お化けか？それとも普通の人………はないな。足ないし」

「そうですね………まあ”お化け”と言うのが妥当でしょうね。ちなみに私たちは自らを”toilet”と呼んでいます」

「トイレット？」

「そう！」

少しずつ、少しずつ話を聞いていくとだんだんコイツらの言っていることがわかってきた。

コイツらによると、トイレの中には人間界とは違う世界があるらしい。

………とても信じられないが。

「で、お前らは人間界に何しに来てんだ？」

「俺たちが”見える”人間を探しに来たんだよ！」

「見える人間？」

「はい。普通、こちらの人間には私たちは見えません。しかし、ごく少数の特別な人間は私たちを捉えることができます。私たちはそういう方たちを探しにきたのです」

「そう言うお前も、その”特別”な人間だぜ！」

「………あ？」

「そうです。貴方は私たちが見えている。そうでしょう？」

「まあ………そうだが、お前等はそういう見える人間を使って何をするんだ」

「それは企業秘密です」

「どうやら、こいつらにはこいつらのルールがあるようだ。」

「ああ、そういえば名前を言っていないでしたね。私は礼<sup>レイ</sup>。以後お見知りおきを」

「俺は迫<sup>サク</sup>。よろしくな」

「枚方みなみだ。よろしくしたくないが、よろしくな」

「早速ですが、今日からこのトイレを使ってもよろしいでしょうか」

「は？」

「このトイレから出入りしていいかって事！」

「決まったトイレがあると出入りに便利なんです」

「なんだかよくわからないが、ウチのでよかったです」

「やった！」

「そうですね、これで寢床が決まった」

「は？」

「あれ？言つてなかった？俺たち見える人間を五人以上見つけないと帰れないんだ」

「なので寢床兼拠点となるとを探していたんです、丁度よかったです。これからよろしくお願いします」

「は、え、ちよつと待て待て待て。つまり………」

「今日からお世話になります。よろしく」

「はあああああああああ！？」

わん!  
(死んでくれ)



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1307/>

---

? a m i n t h e トイレ!

2011年5月6日17時50分発行